

# 6

## 草千里ヶ浜の草原環境保全に向けた活動

- 実施主体 農事法人黒川牧野組合（阿蘇市）
- 実施場所 黒川牧野内草千里ヶ浜等（阿蘇市）
- 実施期間 平成27年4月～平成28年3月



### ◇背景・ねらい

阿蘇観光のシンボルである草千里ヶ浜は、長年、阿蘇市黒川及び永水、南阿蘇村中松の人々が牛馬の放牧に利用しながら、安全に草原を楽しめる場として観光客にも開放してきた。しかし、2010年の九州における口蹄疫の発生以降は、畜産業を口蹄疫被害から守っていくために牛の放牧をやめざるを得ない状況である。

これまでは放牧により草丈が短く保たれるため野焼きを行ってこなかったが、牛を放牧できない状況の中で草原を良い状態で維持し、観光客が安全に草原を楽しめるようにするためには、毎年、採草または野焼きをして管理していく必要がある。

### ◆実施概要

- ①草千里の草刈り：9月に阿蘇市観光協会と牧野組合で行った。  
実施場所：草千里ヶ浜の組合管理地内（1日）  
使用機械：トラクター2台（モーター使用）、刈払い機10台
- ②低木の伐採作業：12月～1月に実施（1週間）、草千里から古坊中に行く道路の左側  
・草より木の成長がよくなり、木の陰で草が育たない。そのため野焼きをしても燃えるものがなく、どうにもならない。低木を伐採して草を育て、翌年に野焼きを行う。
- ③草千里の野焼き：2月27日、約50年ぶりの野焼きを実施

### ◆実施体制

- ①草刈り：阿蘇市観光協会、牧野組合（作業は組合理事18名）
- ②低木伐採：熊本県主導、作業は組合理事18名×1週間
- ③野焼き：熊本県主導、阿蘇市、山上業者、ボランティア、学者、組合等。200～300人位が参加。

### ◆成 果

- ・低木の伐採は、寒い時期、チェーンソーを使っての大変な作業であったが、景観回復への効果は大きく、草が育ち、野焼きができ、ツツジの花が咲き始めた。

### ◆実施者の感想

- ・草千里の草刈りは、年1回では草が戻ってしまうので、牧柵等を設置することによる牛馬の放牧方法も思案中である。
- ・今回の野焼きでは草千里のうち当牧野組合の部分を焼いたが、全体的にやれば景観がよくなる。そのためには関係者間の合意が必要であり、行政関係機関の協力をお願いしたい。
- ・低木は今回の伐採箇所以外でも繁茂しており、伐採作業は続けてもらいたいものである。
- ・熊本地震の被害により牧野内は危険箇所が多いこともあり、放牧頭数は例年の半分位である。またWC S（稲発行粗飼料）が放牧減少の要因の一つとも思われる。
- ・地震による牧野道の被害などにより、来春の野焼きは全部はできないかもしれないが、火入れは行う。1年焼かなければ翌年の野焼きは危険性が高まり、できなくなる。